

※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

次は、ある物語の一部です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

## 【物語】

## 《場面の説明》

今治市に住む治は、小学六年生。九月末、祖父の還暦（六十歳の誕生日）を祝うため、京子の家族が五年ぶりに治の家へやってきた。京子は、治より一つ年上のいとこだった。

その日の夕方、治と治の母、七海、そして京子の三人は、家の近くの小さな店に向かった。

その店が近づいた。

「せ、ん、ざ、ん、き。せんざんきつて書いてある。」

京子は、不思議そうな顔で、店のサイズとは不釣り合いな大きさの看板の文字を読み上げた。

くすんだあずき色をした看板は、雨風にさらされる前は、きつとあざやかな赤だったにちがいない。

「京子ちゃんは、せんざんき食べたことあるかい？」

京子の横を歩く七海がたずねた。

「ないわ。だって、せんざんきつて、初めて聞いた言葉だし、こんな変わった名前の食べ物があったんだ。」

「東京では、どんなふうにいるんじゃない？」

前に行く治が、ふり返った。

「からあげ、に決まるとる。」

後ろ向きに歩きながら、治は七海の足もとに視線を落とし、早口に言った。

「えっ、からあげのことなの？」

突然、大きくなった京子の声に、治は顔を上げた。

朝、東京を発った京子たちが治の家に着いてから、小一時間が経っていた。治は、このとき初めて、近くから京子の顔を見た。昼間の熱気をどこかへ連れ去った夕風が、京子の長い後ろ髪を一、二度、軽く持ち上げた。

「わたし、からあげ、大好きなんだ。おばさん。」

七海に向かって話す京子の横顔は、やはり、治の記憶にある京子とは別人だった。治は、あわてて向き直り、歩を速めた。

「せんざんきは、今治のソウルフードじゃけんね。」

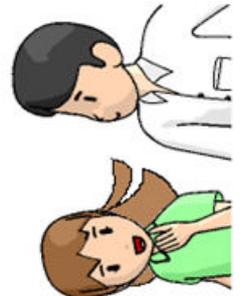
「ソウルフード？……また、わかんない言葉だ。」

「ソウルは、なんじゃろね、ふるさととか、その土地のつてことで、フードは、食べ物。」

「じゃあ、せんざんきは、昔、今治にしかなかったつてこと？」

「はつきりはわからんけど、この辺の人は、せんざんきは今治で生まれたと思つとるよ。」

すでに店の前に立ち、店主の「いらつしやい。今日も暑かつたね。」の声にむかえられながらも、治の耳は、後ろの声ばかりをひろっていた。



## 【スピーチ】

スピーチの話題をさがしていた宮本さんは、物語を読み、松山市にも同じような店があることを思い出しました。そして、その店の主人にインタビューをしました。

次は、宮本さんが取ったメモです。

## 【メモ】

- 一日にどれくらい売れるのか？  
→ 多い日は、百個以上売れる。ふだんは、八十個くらい。
- どの時間帯がよく売れるのか？  
→ 夕方。高校生や大学生が学校帰りに買ってしてくれるから。
- 小学生も、買いに来るのか？  
→ 近所の子がよく来る。でも、高校生ほど多くはない。
- この店では、せんざんきという名前は使わないのか。  
→ うちの店では、昔から、からあげと呼んでいるが、松山にも、せんざんきという名前を使っている店がある。
- どうして、せんざんきというのか？  
→ ある人から、「今治の料理店があまつた骨つきのとり肉を、しょうゆ味のたれをつけてあげたのが始まりで、骨をしやぶる食べ物ということから、せんざんきと呼ぶようになった。骨をしやぶることとせんざんきという呼び方が、どのようにつながっているのかは分からない。」と聞いた。他にもいろいろな説があるようだ。

- Ⅰ 宮本さんは、次の写真を見せてから、下の□のように話し始めることにしました。  
( ) ①、②に当てはまる言葉を書きましょう。



みなさんは、この写真の食べ物のことを ( ① ) と呼びますか、それとも ( ② ) と呼びますか。

- Ⅱ 【物語】と【メモ】の内容を参考にして、学級で一分間スピーチをすることとします。  
次の条件に合わせて、あなたが話したいことを書きましょう。

## 〈条件〉

- 一の文に続ける形で書くこと。
- 一の文をのぞいて、八十字以上、百二十字以内で書くこと。
- 「東京」「今治」「松山」の言葉をすべて使って書くこと。



一 ① からあげ ② せんぞんき (順不同)

二 (例1)

東京ではからあげと呼ばれているこの食べ物を、今治の人はせんぞんきと呼ぶそうです。松山では、人によってからあげと呼んだり、せんぞんきと呼んだりするようです。ちなみに、西条に住むほくのおじさんは「ぞんき」と呼んでいます。(109字)

(例2)

東京ではからあげ、今治ではせんぞんきと呼ぶそうです。松山にもせんぞんきを使う店があるそうです。なぜそう呼ばれるようになったのかというと、今治の料理店で生まれた言葉という説がありますが、他にも説があり、はっきりとは分かりません。

(114字)

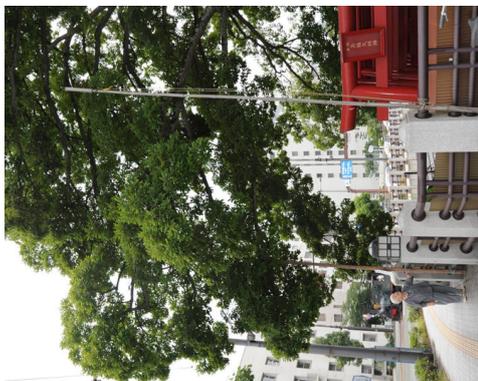
※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

「お気に入りの場所をしようかいしよう」という学習に取り組んでいる安田さんは、近所の堀の中にある鳥居の記事が地域の広報紙にのっていることを知りました。

【写真】 ア



イ



【説明】

堀の外側にはコンクリートの近代的な建物が並び、路面電車と車の走行音が **A** けたたましい。お榎さんは、こんな科学技術文明とはえんのない小さな空間。時代は変わっても **B** しよ民の **C** 信心が息づいている。

言い伝えでは、お袖狸は約百五十年前、城山から堀端のエノキにすみつくようになった。その後、**D** 信二の対象となり、商売はんじょう、病氣回復などでご利益があるとひょうばんに。一九一八（大正七）年には、産婦人科医の先生が、お袖狸の子を取り上げたとか。以来、安産の守り神としても有名になり、医院もはんじょうしたという楽しい伝説も残る。

階段を下りると、エノキの大木の根元に小さな **E** ぼこらがある。タヌキの焼き物も静かにすわっている。「息子のしゅうしよくが決まりますように……。」市役所を訪れたついでに、お参りに来た母親が手を合わせる。一日じゅう、線香のけむりが絶えることはない。ここでは、のんびりと時間が流れる。

松山市役所前のお堀の土手。赤い鳥居と **F** のぼりがにぎやかに立ち並ぶ。正式な呼び名を「八股榎大明神」という。まつっているのはタヌキ。昔から「お榎さん」や「お袖さん」の名前で親しまれている。

一 安田さんは、【説明】の——線部 **A** から **F** の言葉について、【二ページ】のとおり意味調べをしました。辞書を引く前に、安田さんは、五十音順に **1** から **6** の番号をつけました。

**1** 番目は、**A** 「けたたましい」になります。では、**3** 番目はどの言葉になりますか。最もふさわしいものを選んで、**B** から **F** までの記号を書きましょう。

【二ページ】

順	記号	言葉	意味
1	A	けだたましい	とつぜん高い音や声をするようす。
	B	しよ民	世間いつぱんの人々。
	C	信心	信じて疑わない気持ち。
	D	信こう	神仏などを信じてうやまうこと。
	E	ほこら	神をまつた小さなやしろ。
	F	のぼり	寺や神社などの目印となる細長い旗。

二 安田さんは、【二ページ】の写真と説明、そして、自分で取材した内容にもとづいて、次のようなかい文を書きました。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【発表原稿】 ※ ①～⑤は、段落の番号を示す。

- ① この写真を見てください。路面電車と車が行きかう街中に、こんな小さな鳥居があるのを知っていますか。これは、「八股榎大明神」といって、松山城の堀の中にあります。神木である「八股榎」の巨木をまつてあります。
- ② この神木には、こんな言い伝えがあります。お袖狸さんが約百五十年前、お城のある山から堀端のエノキにすみつくようになりました。その後、信こうの対象となり、商売はんじよう、病氣回復などでご利益があるとひようばんになりました。
- ③ 一九二八（大正七）年に、松山市長を務めた、産婦人科医の先生が、お袖狸の子を取り上げて以来、安産の守り神としても有名になり、病院もはんじようしたという楽しい伝説が残っています。
- ④ でも、こんなこわい話もあります。以前、成長したエノキを移転させようとして枝を切った男がなくなりました。それ以来、「この木を切るとたたりがある。」と言い伝えられています。そのため、成長した木の一部を切るときにも、「報告祭」を開き、作業の無事をいのるのだそうです。
- ⑤ これから暑い季節をむかえます。鳥居をくぐれば、そこは別世界です。みなさんも一度、足を運んでみてください。



1 【発表原稿】の中に、安田さんが取材した内容を中心に書いている段落が一つあります。①から⑤までの中から選んで、その番号を書きましょう。

2 【発表原稿】の——線部「この写真」としてふさわしい写真は、【二ページ】の【写真】ア、イのどちらですか。①段落の内容をもとに考えて、アまたはイの記号を書きましょう。



一 D

二 1 ④

2 イ

三 (例 1)

ぼくのお気に入りの場所は、空港の横にある公園です。ここが気に入っている理由は、飛行機の出発や到着の様子がすぐ近くで見られるからです。よく晴れた日に、飛行機の形をした大きなすべり台の上で、乗客に向かって手を振るのは最高です。

(112 字)

(例 2)

わたしのお気に入りの場所は、学校の校庭にある大きなアカシヤの木の下です。なぜなら、暑い日にわたしたちにすずしさをもたらしてくれたり、温かく包み込んで安心感を与えてくれたりするからです。木かげでのおしゃべりも楽しいです。(110 字)